

# 学生提案成果報告⑧

## 大谷景観復活プロジェクト一夜の大谷を活かした活性化の取り組み—

宇都宮共和大学シニアライク学部 2年 西山ゼミ  
 小田京祐(2年), 吉岡 真一, 関 俊太, 小松 大輔, 薄井 和翔  
 大熊 和輝, 阿久津 和彦, 漆原 黎, 中島 佑輔

**【概要】** 本プロジェクトは、栃木県を代表する観光地として脚光を浴びている宇都宮市大谷地区の景観維持と観光振興を目的とした実践活動である。今年度はコロナ対応が必要なものもあり、夜の大谷を盛り上げる活動を中心に、景観整備、イルミネーションの制作、大谷石採掘場での映画鑑賞会などを地元自治会、行政、民間事業者、他大学、NPO等と連携しながら実施した。

### 1. 研究の背景と目的

発表者らは2018年4月より、大谷地区(以下、大谷)の景観維持と観光振興に向けた空き地・空き家の活用を目的に「大谷景観復活プロジェクト」と銘打ち、活動を展開してきた。近年の大谷は、他には見ることのない美しい奇岩群や地下空間が人気を集めている。しかし、観光関連施設の少なさなどが影響し、観光客が大谷やその周辺に滞留せず経済効果は限定的となっている。本プロジェクトは、机上の空論ではなく、自らの行動によって、大谷や大谷石の素晴らしい景観・文化を市民や観光客に感じてもらうこと、また空き地や空き家を活用することによって、当地区の観光振興に貢献することを目的とした。

なお、今年度からは新たに編成された3年西山ゼミが、昨年度まで活動してきた現4年生から当プロジェクトを引き継いでいる。

### 2. 大谷地区の現状

大谷地区における観光客は、2019年まで順調に増加している。それに伴って飲食店を中心として店舗の出店がみられ、以前に比べ賑わいが生まれているように見受けられる。ところが2019年10月に発生した台風19号による姿川氾濫により当地域は大きな打撃を受けた。この災害は住民や地域コミュニティに更なる困難をもたらしている。当地区は高齢化が深刻であり、そうした世帯の中には他所へ転居するものも少なくなく、地域コミュニティの更なる活力低下が懸念される。

そうした状況に拍車をかけたのが2020年2月ごろから明らかとなった新型コロナウイルスの感染拡大である。当地区の主要な観光施設が長期にわたって休館するなど、観光産業を中心に大きな打撃を受けている。感染拡大が一時的に終息した7月ごろになっても、例年の客足は戻らなかった。発表者らの活動に大きく影響したのは、地域意識である。「多くの来客を伴うようなイベントは控えてほしい」との地域側の姿勢により、昨年度実施したような飲食を伴った大規模なイベントは実施できないという状況の中、5月下旬からゼミ活動が開始された。

### 3. 現地調査と草刈り

新型コロナウイルスによる非常事態宣言が解除された5月末以降、表1に示したような事業を展開した。まず、大谷地区の課題を発見するために、大谷グリーン・ツーリズム推進協議会(以下、大谷GT)の加藤会長にご案内いただき、現地視察(まち歩き)を実施した(写真1)。6月からはNPO法人大谷石研究会の塩田理事長に、3週にわたって大谷石や大谷地区について講義していただき、大谷石や大谷地区の基礎的事項について認識を深めた。

2020年度で3回目となる恒例の大谷草刈りは、6月14日に実施した。学生約50名に加え、大谷GT、地元2

表1 2年西山ゼミにおける2020年度の大谷地区に関連した活動

月	事業名	連携・関連団体・企業	報道の有無
5	大谷現地調査(30)	大谷グリーンツーリズム推進協議会	なし
6	塩田潔氏による大谷石に関する講演(計3回) 第1回大谷地区草刈り(6/14)	NPO法人大谷石研究会 大谷自治会、荒針自治会、大谷グリーンツーリズム推進協議会	なし
	大谷PRグッズ制作	なし	なし
7	竹あかり制作準備開始	若山農場、榊フアーマーズ・フォレスト、大谷石材協同組合	なし
	採掘場跡地の映画鑑賞会準備開始	栃木県観光実行委員会、リコージャパニウム株式会社	なし
9	栃木県立大学地域連携活動支援事業「採掘場跡地」制作準備開始	栃木県総合政策部	なし
9-12	城山地区における大谷石産産物の立地調査	NPO法人大谷石研究会	なし
	第2回大谷地区草刈り(10/3)	なし	なし
	竹あかり制作イベント「今日から竹は！！」実施(10/10)	若山農場、榊フアーマーズ・フォレスト	下野新聞、サンデーちちぎ(栃木放送)
10	大谷石採掘場跡地の映画鑑賞会(10/17)	栃木県観光実行委員会、リコージャパニウム株式会社	下野新聞、朝日新聞、東京新聞、栃木文化社のS欄集星、地味しほーと
	フェスタm大谷での竹あかりと石あかりの展示(10/17-25)	若竹の杜 若山農場、榊フアーマーズ・フォレスト、大谷石材協同組合、フェスタm大谷実行委員会	東京新聞
11-12	姿川護国神社の除染作業(11月中)	大谷グリーンツーリズム推進協議会	未定
12	大谷石オブジェ設置	文學芸術大学吉田ゼミ、速辺建設機、榊みどり	未定



写真1 5月30日に実施した大谷視察



写真2 6月14日の大谷草刈り

自治会、消防団など、総勢80名態勢の大掛かりなものとなった。主催者は、昨年度まで西山ゼミであったが、地元への移行が必要との考えから、今年度発足した大谷GTに事業を引き継いでもらった。よって本事業は、発表者らが大谷地区の草刈りを支援するからたちで実施された。

今回の草刈りでは、景観整備を行うエリアが固定された、すなわちテーマを掲げて草刈りを実施できたことも成果といえる。大谷地区には、大谷石をトロコヤやトラツグに積み込んだための「ブラットホーム」が道路沿いに点在している。利用されなくなった今日においては、夏季になると草本が繁茂し小高い山の上になり、ブラットホームの存在が景観を損ねる元凶となっていた。今回は、ブラットホームが多く点在する大谷交差点から大谷市営駐車場までの約800mを整備した(写真2)。来年以降は、当範囲のブラットホームをかつての状態で復元し、観光スポットの一つにするとともに、ジャズイベントなども開催できるようにしたいと考えている。

#### 4. 夜の大谷を活用した事業

先述のように、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大谷地区における大規模な集客を伴うイベントは実施できない状況であった。5月末の現地視察後、大谷地区の課題や活動のアイデアについてディスカッションを行った。その中で「夜の大谷をイルミネーションなどでライトアップすれば面白いのではない」という意見が、ゼミメンバーから多く出た。ちょうどその頃、大谷地区の振興を担当する宇都宮市大谷振興室から「今年のアエスタ in 大谷（毎年10月に開催される大谷地区のイベント）では、ライトアップが中心になるかもしれない」との情報が届いた。これにより2020年度西山ゼミのテーマは「夜の大谷地区を盛り上げる活動」と決まった。

7月にフェスタ in 大谷の開催やイベントの内容が正式に決まると、西山ゼミでも当イベントの部会に参加するなどの設置である。このイルミネーションの制作と展示を主に発表者らが担わせていただくこととなった。

イルミネーションを制作するといっても、ノウハウや機材がない。そこで発表者らが議論した結果、当イベントの部会に参加していた㈱アーマーズ・ブオレスト（以下、F・F）と㈱ワカヤマファーム（以下、若山農場）に協力を依頼した。7月から8月上旬にかけて、3者で議論を重ね10月10日（土）に若山農場にて竹を使ったイルミネーション（以下、竹あかり）を制作するイベントを一般公募で実施し、10月17日から25日まで開催されるフェスタ in 大谷にて展示することとなった。

8月下旬からイベントの企画、チラシ制作、プレスリリースを順次行った。図1に示されているように西山ゼミ、若山農場、F・Fの共催イベントである。新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、現地集合、現地解散、定員を40名までとした。昼食は、今年度オープンした「Puntio-大谷町食堂」に特注で依頼。申し込み窓口は、F・Fの旅行部門である「えにしトラベル」が担当していた。

**共同企画 共催**  
宇都宮共和大学 若竹の社 若山農場  
えにしトラベル

**今日から竹は!**

**竹のマイイルミネーション制作しよう!**  
若山農場の空気を活用して、イルミネーション（竹あかり）を制作するイベントです。  
若山農場のスタッフが、10月10日（日）に宇都宮市大谷町で開催される「フェスタ in 大谷」にて、公開展示されます。

**開催場所**  
宇都宮共和大学 若竹の社 若山農場  
（栃木県宇都宮市宝木町2018）

**現地集合 現地解散**

**定員** 40名  
（乗小旅行 人員：1名）

**参加費**  
一般 2,700円  
小学生以下 1,200円  
10歳未満 17歳以下児 無料

**開催日**  
2020年 10月10日（土）  
10時集合 17時終了

**お問い合わせ・運営**  
宇都宮共和大学 若竹の社 西山ゼミ  
TEL: 028-5658-1817 Mail: info.wakayama@gmail.com

**お申し込み**  
お申し込みは10月17日（日）正午までお申し込みください。  
お申し込み先  
えにしトラベル  
TEL: 028-5598-7382 18歳以下子供専用 / 10-10-17-00

図1 竹あかり制作イベントのチラシ



写真3 竹あかり制作イベントの様子



写真4 フェスタ in 大谷で展示された石あかりと竹あかり

10月10日のイベントでは24名の参加申し込みがあり、10時からイベントが行われた。当日は台風が接近していたこともあり、一日を通して雨だったが、屋根付きの作業場を使って作業が行われた。作業ではゼミメンバーが各作業テーブルに張り付き、参加者に対してアドバイスや補助を行った。12時から1時間程度の休憩を挟み、午後3時ごろにはほぼすべての参加者の作業が終了し、解散となった（写真3）。

フェスタ in 大谷では、イベントで制作した竹あかりのほか、灯作家の鎌田泰二氏監修のもとゼミ生がデザインした石あかりも設置された（写真4）。フェスタ in 大谷実行委員会が行った観光客へのヒアリング調査では、竹あかりや石あかりの評価が非常に高く、当委員会でも来年度以降、竹や石を使ったイルミネーションを継続して行うことが申し合わされた。

#### 5. 大谷石採掘跡地の映画鑑賞会

大谷石採掘跡地を利用した映画鑑賞会は、2019年度から計画されていた事業であったが、2019年10月の台風19号により延期となっていた。2020年7月ごろから、4年西山ゼミの学生がリーダーとなり、連携団体である鉱毒悲歌実行制作委員会、リコージャパン（㈱栃木支社の協力のもと、10月17日に採掘跡地を利用して実施された。本イベントの特徴は、地面にマットを敷き、優そべりながら大谷石の天井に投影された映画を鑑賞するというもので、世界初の試みである。地域への配慮から共和大の学生のみの参加とし、ドキュメンタリー映画「鉱毒悲歌」を上映された。上映後は、学生と鉱毒悲歌制作委員会の間で環境問題についてディスカッションが行われた。

#### 6. おわりに

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、当初想定していた活動を実施することが難しかった。その反面「夜の大谷を活かす」という新たな発想が生まれ、当地区に新たな価値を提示することができた。イルミネーションで当地区を盛り上げるといふ発想は、来年で降り続く可能性が高い。また、西山ゼミが2018年度から続けてきた草刈りが、発表者たちの手を離れ、本来担うべき地元の手へと委ねられたことも大きな功績と考えている。発表者らは、こうした新たな発想を地元へ提供し続け、今後も当地区の地域振興をサポートしていきたい。